

平成29・30年度
始良・伊佐地区研究協力校（算数科）研究公開
伊佐市立曾木小学校

1 研究主題

分かる喜びを味わわせ、「確かな学力」の向上をめざす指導の在り方
～算数科を中心とした指導方法の工夫を通して～

2 研究発表

伊佐市立曾木小学校では、「確かな学力」の向上を目指し、平成29年度からの2年間、地区研究協力校として本テーマで研究・実践を推進してきました。

研究発表では、学力に関する諸調査の結果や、児童の実態、教師が感じている問題意識から、研究主題を設定し、算数科を中心とした確かな学力を育む指導方法についての具体的な取組が示されました。

特に、学習過程においては、児童の実態や学習内容に応じて「問題解決学習型」、「自己目標設定型」、「教授・習得型」という三種類の型を設定し、効果的な組合せによる授業づくりの研究は、参加された方々に多くの示唆を与え、複式の小規模校に参考となる取組でした。

なお、仮説及び主な取組は以下のとおりです。



【全体会Ⅰ 研究発表の様子】

【仮説1】

学習過程を学級の実態や単元の内容に応じて工夫すれば、児童がより意欲をもって取り組み、児童に分かる喜びを味わわせることができるのではないか。

〈具体的な取組〉

- ・ 学習過程・単元指導計画の工夫
- ・ 「そぎスタンダード」による共通理解
 - ◆ 見通しをもたせる学習活動
 - ◆ 学び合いの場の設定
 - ◆ ラスト10分の練習時間
 - ◆ 授業の最後は振り返り

【仮説2】

児童の実態を踏まえ、基礎・基本の力と併せて、活用する力や読解力を育成することでバランスのある学力向上が図られ、「確かな学力」の向上をめざしていくことが確立されるのではないか。

〈具体的な取組〉

- ・ ぐんぐん算数、算数タイムの運用の工夫
- ・ ぐんぐん国語、国語タイムの運用の工夫
- ・ 算数音読カードの作成と活用
- ・ 算数オリエンテーリングの実施
- ・ 曾木小「必読書リスト」の作成
- ・ 「わが家のおすすめの本」紹介

3 公開授業

田中智子教諭が、5年で従来の問題解決学習型の学習過程を6年で、より学習意欲を高める自己目標設定型を設定し、児童一人一人に分かる喜びを味わわせ、「確かな学力」の向上を目指した授業を行いました。

5年の「図形の面積」の単元において、ひし形の面積の求積公式をつくることを深く思考させました。縦や横の長さが対角線であることに気付き、式の変形から公式を立てる姿を見ることができました。一方、6年では「比例と反比例」の単元における正多角形の一边の長さとおのりの長さの関係を式に表す学習でした。比例の関係であることを式に表し、被乗数と乗数が入れ替わることから、数学的な見方・考え方が深まる場面がありました。ガイド役の児童が戸惑うことなく学習を進めることができ、これまでのガイド学習の積み上げを感じることができました。



【第5学年研究授業】



【第6学年研究授業】

4 分科会

分科会では、「確かな学力の向上を図るための授業づくりは、どのような工夫を行えばよいか。」「活用する力を育成するには、どのような工夫を行えばよいか。」の2つの視点について協議が行われました。参加者からは、「そぎスタンダードを学校全体の共通実践事項として取り入れてみたい。」「単元の指導計画の中で、自己目標設定型や教授・習得型をどのように計画していくのが効果的なのか検討が必要である。」といった意見が交わされ、充実した分科会となりました。

次は、参加者の感想の一部です。



【ワークショップ型】

- 教児共に複式での学習が満足に行えると、主体的・対話的な深い学びにつながると感じることができました。また、ガイドの子どもたちの指導や打合せがしっかりできており、授業もスムーズに進んでいました。複式指導の学習過程の工夫が、子どもにも理解されているので、学びに向かうのだと思いました。
- 授業準備、構造的板書、子どもたちの学習に取り組む姿勢など大変参考になりました。また、設営が量感だけでなく、算数のよさ、おもしろさ、生活の中での算数を感じることができる内容でした。
- ワークショップ型の授業研究で、意見を出しやすかったでした。視点の絞り込み、改善点にフォーカスしたことも良かったでした。